

平成18年度事業報告書

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

学校法人 千葉敬愛学園

目 次

1.	法人の概要	-----	1 頁
	理事長挨拶		
	沿革		
	組織図		
	設置する学校および所在地		
	役員一覧表および評議員数		
	部門別教職員数		
	学部学科入学定員及び収容定員、在籍者数		
2.	事業の概要	-----	4 頁
	教学関係		
	募集計画		
	中期経営計画		
	平成18年度主要事業		
3.	財務の概要	-----	6 頁
	(1) 資金収支計算書		
	(2) 消費収支計算書		
	(3) 貸借対照表		
4.	今後の課題	-----	10 頁

平成18年度千葉敬愛学園事業報告書

1 法人の概要

理事長挨拶

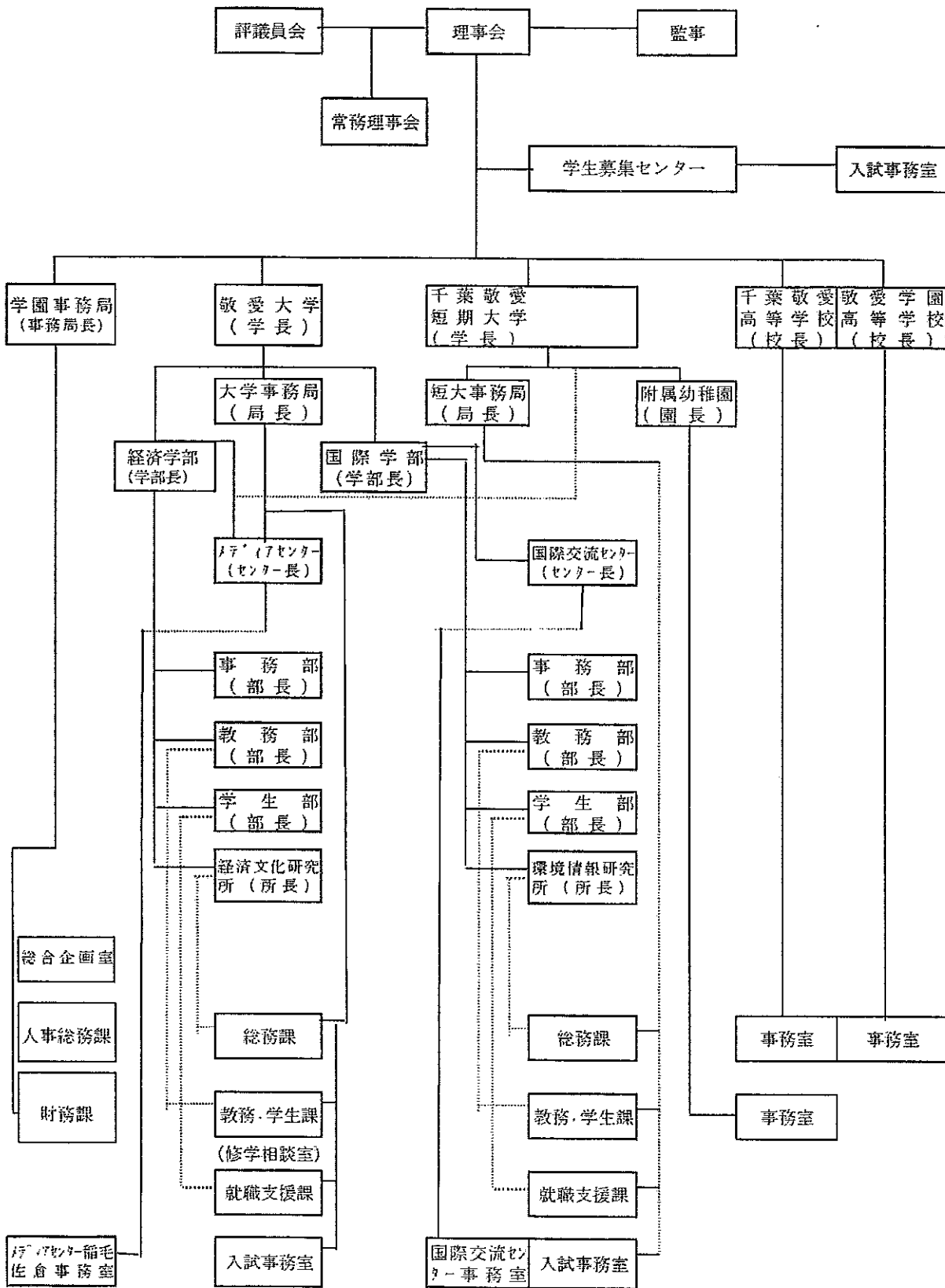
本学園は平成17年度に創立80周年を迎えました。大正時代の関東中学校の開設を皮切りに、昭和、平成と歴史を刻み、この間に大学、短大、高校そして幼稚園を設置し、総合学園へと発展してまいりました。しかし、昨今の少子高齢化の荒波をもろに受け、厳しい状況にいま立たされておりますが、教職員一同心を一つにして、この難局を切り抜け、よりよい教育機関へと歩を進め、その使命を果たしたいと願っております。

本学園の建学の精神は『敬天愛人』であります。これは西郷南洲の遺訓から導入したものでありますが、「天を敬い、人を愛す」この精神こそ、今の世の中になくはならないものだと考えます。この建学の精神を教育の基本に据え、社会に役立つ人材育成にこれまで以上に努力していきたいと考えております。明るく、楽しい、充実した学園の実現と発展に期待しております。

沿革

大正15年 4月	財団法人関東中学校設置認可
昭和 6年 4月	設置者を財団法人関東学園に変更認可
昭和 6年 4月	千葉関東商業学校（夜間部）併設認可
昭和22年 5月	関東中学校設置認可
昭和23年 3月	学制改革により千葉関東高等学校第1部、第2部設置認可
昭和26年 2月	私立学校法制定により財団法人関東学園は学校法人関東学園として設置認可
昭和28年 3月	千葉関東商業高等学校設置認可
昭和32年11月	千葉関東商業高等学校に工業科設置、名称を千葉工商高等学校と改称
昭和33年 7月	千葉関東高等学校の名称を千葉敬愛高等学校と改称認可
昭和33年 7月	関東中学校の名称を千葉敬愛中学校と改称認可
昭和39年 6月	千葉敬愛高等学校の位置を四街道市四街道1522番地に変更
昭和41年 1月	学校法人名を千葉敬愛学園と改称認可
昭和41年 1月	千葉敬愛経済大学設置認可
昭和41年 1月	千葉敬愛短期大学の設置者を学校法人長戸路学園より本法人に変更認可 (昭和25年3月初等教育科設置認可、昭和37年3月初等教育科第2部設置認可)
昭和48年 3月	千葉敬愛短期大学附属幼稚園設置認可
昭和48年 3月	千葉敬愛中学校廃止認可
昭和49年 4月	千葉工商高等学校に普通科設置
昭和57年 3月	千葉敬愛高等学校第2部廃止認可
昭和62年 4月	千葉敬愛短期大学の位置を佐倉市山王1丁目9番地に変更
昭和62年12月	千葉敬愛短期大学初等教育科第2部廃止認可
昭和62年12月	千葉敬愛経済大学の名称を敬愛大学と改称認可
平成元年12月	千葉敬愛短期大学国際教養科設置認可
平成 6年 6月	千葉工商高等学校の名称を敬愛学園高等学校と改称認可
平成 8年12月	敬愛大学国際学部国際協力学科設置認可
平成 9年 4月	千葉敬愛短期大学国際教養科募集停止
平成11年12月	千葉敬愛短期大学国際教養科廃止認可
平成15年 4月	敬愛学園高等学校工業に関する学科（機械科・電気科・建築科）、商業科募集停止
平成17年 3月	敬愛学園高等学校工業に関する学科（機械科・電気科・建築科）、商業科廃止認可

組織図



設置する学校および所在地

- 敬愛大学経済学部 経済学科
〒 263-8588 千葉市稲毛区穴川1-5-21
- 敬愛大学国際学部 国際協力学科
〒 285-8567 佐倉市山王1-9
- 千葉敬愛短期大学 初等教育科
〒 285-8567 佐倉市山王1-9
- 千葉敬愛高等学校 全日制課程普通科
〒 284-0005 四街道市四街道1522
- 敬愛学園高等学校 全日制課程普通科
〒 263-0024 千葉市稲毛区穴川1-5-21
- 千葉敬愛短期大学附属幼稚園
〒 261-0004 千葉市美浜区高洲2-2-16

役員一覧表及び評議員数（平成19年3月末現在）

【役員】

理事	理事長	長戸路 政 行
	常務理事（人事総務担当）	近 藤 龍 夫
	常務理事（財務担当）	加 藤 義 平
	常務理事（学務担当）	土 井 修
	理 事（高校・幼稚園担当）	馬 場 昌 平
	理 事	長戸路 雄 厚
	理 事	加賀美 修
	理 事	北 原 文 成
	理 事	鈴 木 明 男
	理 事	矢 野 光
	理 事	君 塚 淳
	理 事	奥 山 浩
	常任監事	岩 崎 西 鸞
	監 事	西 川 賢 造

【評議員】

評議員 霞 鳥 芳 男 他24名

部門別教職員数（平成18年5月1日現在）

	学園本部	経済学部	国際学部	短期大学	敬愛高校	学園高校	幼稚園	全体
教員数	0	31	26	16	70	73	11	227
職員数	3	28	19	7	7	6	1	71

学部学科入学定員及び収容定員、在籍者数（平成18年5月1日現在）

	学園本部	経済学部	国際学部	短期大学	敬愛高校	学園高校	幼稚園	全体
入学定員	0	260	195	150	406	457	90	1,558
収容定員	0	1,062	835	300	1,218	1,371	270	5,056
在籍者数	0	1,122	715	376	1,286	1,315	248	5,062

2 事業の概要

千葉敬愛学園は、建学の精神、「敬天愛人」に基づいて、学園創設以来有為な人材を育成し世に送り出してきました。21世紀になってグローバル化、IT革命等により世界は、目まぐるしく変化しつつあり、本学園を取り巻く環境も大きく変わりつつあります。

今、社会が必要としているのは、21世紀のフロンティアを切り開いていく人材です。大学では、実践的なIT教育をはじめ実学重視のカリキュラムを組み、人間性豊かな人材育成を目指しています。

短期大学では、少子化への支援に資する新たなニーズに向けて幼保・小幼コースによる資格取得を重視した人材育成を目指しています。

高校では国際交流、進学指導等の充実・強化、さらには課外活動への積極的な参加の促進等を実践しています。幼稚園では、保護者のニーズに応えた園バスの運行、課外教室の多様化、縦割保育等を展開しています。こうした実践的な学習プログラムと人間性豊かな学風とによって、21世紀が求める心と新しい技術を兼ね備えた人材を育てていきます。

一方、教育環境面では、第二次中期経営計画最大の事業であった千葉敬愛高校新校舎建設は、15年度に体育館棟、16年度校舎特別棟、17年度普通教室棟、そして18年度に外構工事等が完成し、全工程が終了、80周年記念式典も終了しました。佐倉キャンパスでは、短期大学の保育士養成課程に係る教室改修などを実施しました。また、19年度からスタートする稲毛キャンパス大学新館建設に係る設計に着手しています。

★ 教学関係

☆ 敬愛大学経済学部

経済系（日本経済・国際経済・生活経済）、経営系（ビジネスマネジメント・ビジネス情報・現代産業）の2系6コース制。少人数教育と習熟度別教育、ライセンスプログラム、アドバンスプログラム、教職課程（社会・商業・情報）を開講。コミュニケーションスキルアップ等講座、企業セミナーを開催。修学相談室及びキャンパスホーカーを設置している。

☆ 敬愛大学国際学部

国際協力のための人材育成を目的に世界各地の歴史・文化・経済・政治等を総合的に学習する地域研究を中心に専門知識や外国語の重視と海外スクーリング等の体験学習を実施。資格取得（気象予報士・日本語教師・児童英語講師）講座を開講している。17年度末に教員免許（中高：英語・地歴公民、中学社会）認可、18年度末に地域こども教育専攻として小学校一種免許が認可された。

☆ 千葉敬愛短期大学

小学校・幼稚園免許、保育士、学校図書館司書教諭の取得を目指した志望別クラス編成で、実践力・専門性・総合性・IT教育を取入れた一人ひとりを大切に実践的教育に徹した少人数教育の実践。（18年度、保育士養成課程定員増）

☆ 千葉敬愛高等学校

国公立大学への進学と部活動重視の文武両道を基本にきめ細かい指導を実践。特に特進クラス・土曜講座・勉強合宿など強化充実。情報設備（各教室からインターネット利用が可能）の拡充。

☆ 敬愛学園高等学校

17年度から普通科（特別進学・進学・人間科学）3コース制の展開、18年度には新教育課程により、二学期制を導入している。また、国際交流として英国留学制度を積極的推進している。

☆ 千葉敬愛短期大学附属幼稚園

3才児から5才児を受入れて心の教育を重視した教育実践と体操・絵画・英語等の課外教室を実施。園バスによる送迎を実施。

★ 募集計画

	学園本部	経済学部	国際学部	短期大学	敬愛高校	学園高校	幼稚園	全体
入学定員	0	260	195	150	406	457	90	1,558
入学者	0	268	159	182	426	371	95	1,501
率		1.03	0.82	1.21	1.05	0.81	1.06	0.96
	編入学者	15人	1人					

★ 中期経営計画（平成14年度から平成18年度の5年間）

	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
帰属収入	5,640	5,441	5,458	5,500	5,415
消費支出	5,561	5,416	5,699	5,749	5,809
帰属収支差額	79	25	△ 241	△ 249	△ 394

★ 平成18年度主要事業（施設設備関係）

1. 千葉敬愛高等学校校舎建築事業（平成14年から平成18年度までの継続事業）

平成14年度からの継続事業として平成18年度外構工事が完成し全工程が完了した。

体育館棟（長戸路7-ナ）鉄筋コンクリート造地上3階、地下1階 3,529.54㎡

特別教室棟（校舎A棟）鉄筋コンクリート造陸屋根5階建 4,502.97㎡

2. 敬愛大学新館建設工事（基本設計）

3. 短期大学調理実習室改修工事（保育士養成課程に伴う）

短期大学音楽室（音楽研究室）ピアノ取替更新（年次計画）

4. 千葉敬愛高校車両購入

5. 学園高校保健室移設及び実習棟改修工事、萩台グラウンド排水工事

6. 短期大学附属幼稚園給排水改修工事

3 財務の概要

18年度決算について、その概況を報告いたします。なお、金額は百万円単位で示しています。

(1) 資金収支計算書

(収入の部)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	3,819	3,908	11
手数料収入	94	104	△ 10
寄付金収入	106	92	14
補助金収入	1,151	1,157	△ 6
国庫経常費補助金収入	268	268	0
その他の国庫補助金収入	80	86	△ 6
地方公共団体等補助金収入	803	803	0
資産運用収入	71	90	△ 19
資産売却収入	101	94	7
事業収入	12	12	0
雑収入	251	259	△ 8
前受金収入	1,663	1,594	69
その他の収入	767	720	47
資金収入調整勘定	△ 1,901	△ 1,915	14
(当年度収入計)	6,134	6,015	119
前年度繰越支払資金	3,999	3,999	
収入の部合計	10,133	10,014	119

学生生徒等納付金収入は、ほぼ予算どおりとなりましたが、18年度入学者数が17年度卒業生数を下回ったことから、前年度に比べ1億5,700万円の減となりました。

手数料収入は、19年度志願者に係る検定料収入が主なものであります。前年度に比べ大学短大は28%、高校および幼稚園は、1%増加しました。

資金収入全体では、予算を1億1,900万円下回りました。主な要因は、19年度入学生に係る前受金収入6,900万円、その他の収入4,700万円(大学新館建設資金として減価償却引当特定資産からの繰入収入減)などにより予算を下回りました。

(支出の部)

科目	予算	決算	差異
人件費支出	3,884	3,881	3
教育研究経費支出	1,145	1,091	54
管理経費支出	252	229	23
借入金等利息支出	58	58	0
借入金等返済支出	99	99	0
施設関係支出	102	67	35
設備関係支出	60	66	△ 6
資産運用支出	580	610	△ 30
その他の支出	623	627	△ 4
資金支出調整勘定	△ 371	△ 406	35
(当年度支出計)	6,432	6,322	110
次年度繰越支払資金	3,701	3,692	9
支出の部合計	10,133	10,014	119

人件費支出は、本年度5名の採用を行いました。途中退職も多くあったため、ほぼ予算どおりとなりました。前年度に比べ退職金等の減少により1億2,000万円減少しました。

施設関係支出は、大学新館建設に伴う設計料、短大調理室改修工事などを実施しましたが、経済学部および学園高校耐震補強工事を20年度へ計画変更したことにより、予算を下回りました。

資産運用支出の主なものは、減価償却引当特定資産を大学新館建設に伴う2号基本金として施設引当特定資産への組入、退職給与引当特定資産への組入、有価証券の購入により、予算を上回りました。

当年度資金収支差額	△ 298	△ 307	9
-----------	-------	-------	---

当年度収支差額は、耐震補強工事を20年度へ変更したことで支出額が減少しましたが、前受金収入も減少したため、予算を上回る支出超過となりました。

※ 上記の表の金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計額が一致しない場合があります。以下同様であります。

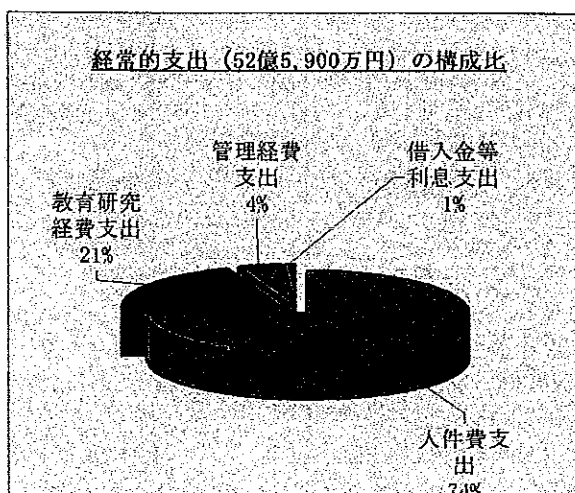
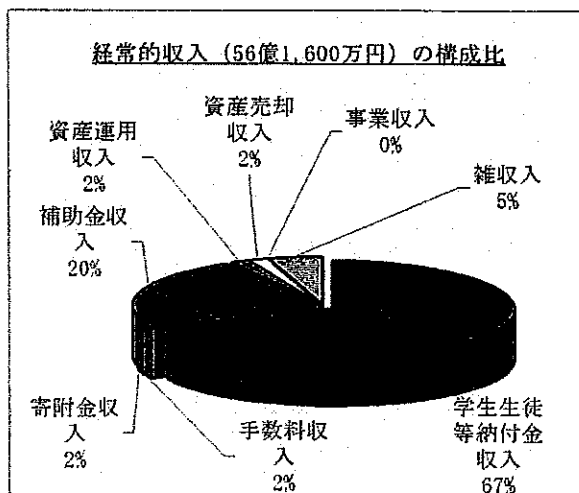
☆ 経常的収支計算書（資金収支計算書）

資金収支計算書の中から経常的な収支科目を比較しているものです。予算編成の中で、資産取得等の収支を除いた経常的な収支状況を示したものであります。

収入は予算を1,100万円上回り、支出は予算を8,000万円下回りました。その結果、経常的収支差額は3億5,700万円の収入超過となりました。学生生徒等納付金収入は、ほぼ予算どおりの収入を計上しているが、退学に伴う未収入金も3,800万円計上しているため実質的には、5,000万円予算を下回りました。資産運用収入（有価証券等の受取利息・配当金収入）は、前年度より増加し予算を上回りました。一方、修繕費およびリース料などの節減により、教育研究経費と管理経費は予算を下回りました。

収支差額比率（経常的収支差額/経常的収入）は、6.4%となり前年度決算を3.1ポイント下回りました。

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	3,819	3,808	11
手数料収入	94	104	△ 10
寄附金収入	106	92	14
補助金収入	1,151	1,157	△ 6
国庫経常費補助金収入	268	268	0
その他の国庫補助金収入	80	86	△ 6
地方公共団体等補助金収入	803	803	0
資産運用収入	71	90	△ 19
資産売却収入	101	94	7
事業収入	12	12	0
雑収入	251	259	△ 8
経常的収入計	5,605	5,616	△ 11
人件費支出	3,884	3,881	3
教育研究経費支出	1,145	1,091	54
管理経費支出	252	229	23
借入金等利息支出	58	58	0
経常的支出計	5,339	5,259	80
経常的収支差額	266	357	△ 91



(2) 消費取支計算書

(収入の部)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	3,819	3,808	11
手数料	94	104	△ 10
寄附金	113	103	10
補助金	1,151	1,157	△ 8
国庫経常費補助金収入	268	268	0
その他の国庫補助金収入	80	86	△ 6
地方公共団体等補助金収入	803	803	0
資産運用収入	71	90	△ 19
資産売却差額	1	1	0
事業収入	12	12	0
雑収入	135	140	△ 5
帰属収入合計	5,396	5,415	△ 19
基本金組入額	△ 607	△ 420	△ 187
消費収入合計	4,789	4,995	△ 206

帰属収入合計は、志願者数の増加にも拘らず、入学者数を上回る卒業生数となったことから、学生生徒等納付金は、予算を下回りました。一方、補助金、施設利用料等の資産運用収入が予算を上回り、帰属収入合計では、ほぼ予算通りとなりました。
補助金は、国庫補助金が配分に係る調整係数の見直し等により、3,300万円増加しました。

基本金組入額は、本年度取得資産のほか、新たに大学新館建設にかかる第2号基本金の組入れを行ったが、稲毛キャンパス校舎の一部耐震補強工事を20年度へ変更したことから、予算を1億8,000万円下回りました。

人件費は、前年度退職者補充のほか5名増員しました。また、退職者は昨年を上回る15名となりましたが、退職給与引当金への繰入額が減少したためほぼ予算通りとなりました。

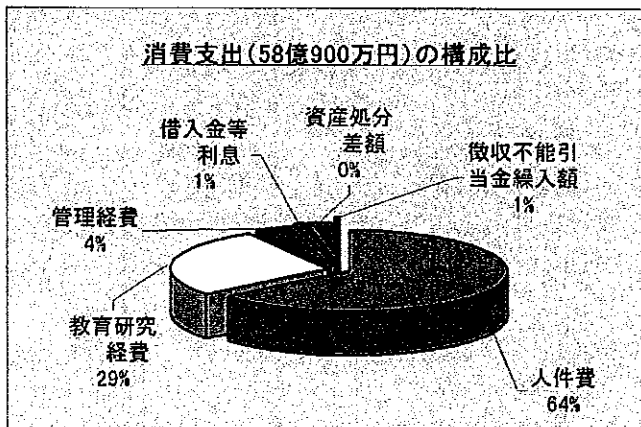
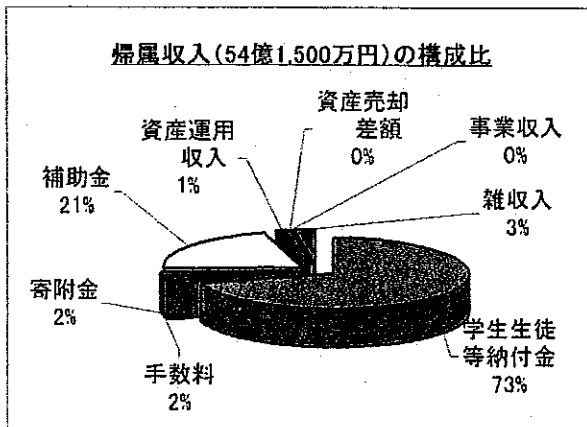
(支出の部)

科目	予算	決算	差異
人件費	3,724	3,729	△ 5
教育研究経費	1,655	1,600	55
管理経費	262	239	23
借入金等利息	58	58	0
資産処分差額	124	145	△ 21
徴収不能引当金繰入額	37	38	△ 1
消費支出合計	5,860	5,809	51
帰属収支差額	△ 464	△ 394	
消費収支差額	△ 1,071	△ 814	
前年度繰越消費支出超過額	2,171	2,171	
基本金取崩額	0	0	
翌年度繰越消費支出超過額	3,242	2,985	

教育研究経費では、光熱費、奨学費、学生生徒諸費など予算を上回りましたが、修繕費、リース料、消耗品費などが予算を下回った結果、5,500万円下回りました。

消費支出全体では、敬愛高校旧校舎の取り壊しのほか、図書廃棄など予算を上回ったが、賃借料、修繕料、印刷製本費など経費節減により、予算を下回りました。

当年度消費収支差額は、過去に取得した資産の支払い(返済)、今後取得予定の計画組み入れなどにより、8億1,400万円支出超過となりました。この結果、翌年度繰越消費支出超過額は29億8,500万円となりました。



(3) 貸借対照表

資産の部

科 目	本年度末	前年度末	増減
固 定 資 産	15,062	15,411	△ 349
有形固定資産	12,822	13,319	△ 497
土 地	2,227	2,227	0
建 物	8,515	8,906	△ 391
その他の有形固定資産	2,080	2,186	△ 106
その他の固定資産	2,240	2,092	148
流 動 資 産	4,292	4,614	△ 322
現金預金	3,892	3,999	△ 307
その他の流動資産	600	615	△ 15
合 計	19,354	20,025	△ 671

有形固定資産は、短期大学実習室改修、敬愛高校電気・衛生設備工事など実施しましたが、当年度の減価償却、一部校舎の取り壊しにより、4億9,700万円の減少となりました。

資産全体では、上記の他、その他固定資産である金融資産は増加しましたが、現金預金等の流動資産が減少した結果、6億7,100万円減少となりました。

負債の部、基本金の部、消費収支差額の部

科 目	本年度末	前年度末	増減
負 債 の 部	5,662	5,939	△ 277
固定負債	3,220	3,375	△ 155
長期借入金	2,679	2,800	△ 121
その他の固定負債	541	575	△ 34
流動負債	2,442	2,564	△ 122
短期借入金	122	100	22
その他の流動負債	2,320	2,464	△ 144
基 本 金 の 部	16,677	16,257	420
第 1 号 基 本 金	15,873	15,857	16
第 2 号 基 本 金	330	0	330
第 3 号 基 本 金	60	60	0
第 4 号 基 本 金	414	340	74
消費収支差額の部	△ 2,985	△ 2,171	△ 814
合 計	19,354	20,025	△ 671

負債の部は、退職金が主である未払金が、1億1,600万円減少したほか、借入金(日本私立学校振興・共済事業団から借入)の減少により、負債合計は前年度に比べ2億7,700万円減少しました。

基本金は、本年度の資産取得額と2号基本金(大学新館建設資金)および4号基本金(支払資金)を増額したため、4億2,000万円増加しました。

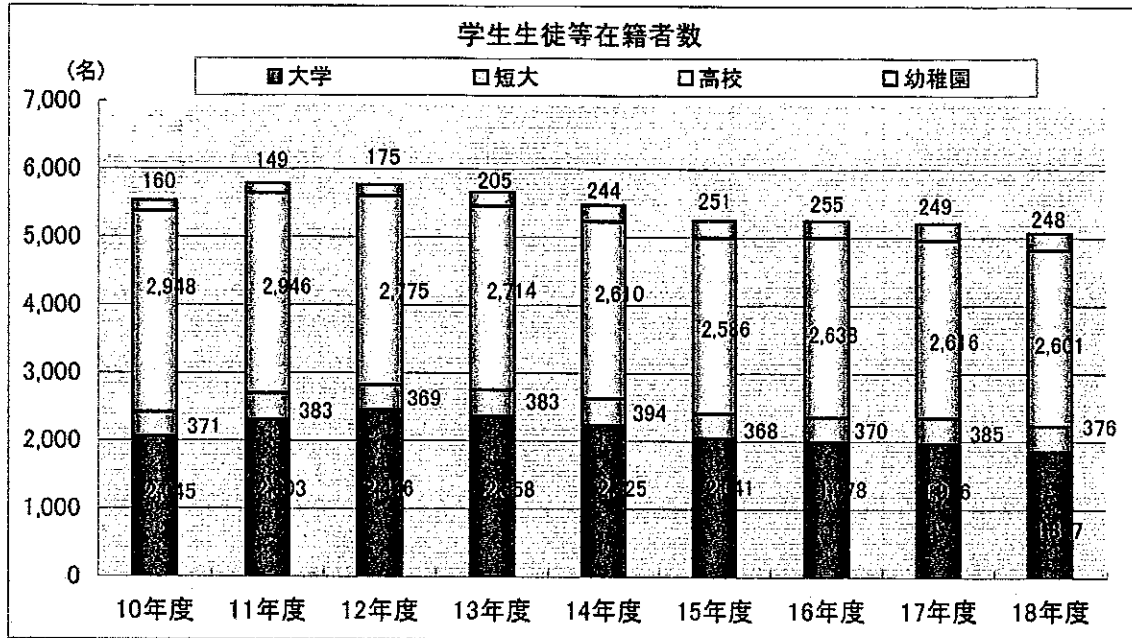
当年度、消費収支差額8億1,400万円の支出超過額により翌年度繰越消費支出超過額は、29億8,500万円となりました。この結果、自己資金は3億9,400万円減少しました。

<参考>

正 味 資 産	13,692	14,086	△ 394
※ 正味資産 = 資産 - 負債 (正味資産 = 基本金 + 消費収支差額)			

減価償却額の累計額	4,979	4,779	200
基本金未組入額	1,954	2,066	△ 112

(4) 学生数の推移



3 今後の課題

私大を取り巻く情勢は、国立大学法人を含めた学生確保が熾烈を極め、その結果、経営破綻回避のために他大学との合併を模索する動きもでてきています。補助金交付の条件は一段と厳しさを増し、予算は年々競争的資金へシフトされ、私学経営はいよいよ正念場に入ったといえます。この経営危機を克服するためにも、財務の健全化を図り、財務情報等の公開を積極的に推進し、広く私学の社会的責務を訴えるとともに、保護者及び社会の理解と支持を得ることが肝要であります。

第三次中期経営計画（平成19年度～平成21年度）は、平成18年度末に策定した「学園の基本構想」に基づく中期経営計画であります。この計画では、稲毛キャンパス整備の第一次計画として、平成19年度から平成20年度にかけて大学新館建設を予定しています。

また、最大の課題である財務の健全化では、学生生徒等の安定した確保と人件費を含む経費削減による収支均衡の実現を図り、安定した学校経営が望まれます。そして、稲毛キャンパスの整備計画第二次の事業として敬愛学園高校の改築資金および幼稚園の改築資金の確保に努めねばなりません。その為には、教職員の理解と協力のもと、着実に目標に向かって実行して行く必要があります。受け入れた学生生徒等の進学、就職支援等、社会のニーズに対応した種々の取り組みを行うことで、社会からの信頼を高め、学園全体の名声をより強固なものにしていかねばならないと考えております。